

1. 科目名（単位 数）	薬理学概説（薬物乱用防止を含む）（2 単位）		3. 科目番号	EDHE2319 PSMP2305
2. 授業担当教員	飯島 久香			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、 ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物（覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど）の特徴、およ薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。			
8. 学習目標	以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 薬の有効性と毒性（副作用）の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。			
9. アサイメント （宿題）及びレポ ート課題	1. 薬物関連の最新情報（効果、副作用、新薬情報など）を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめのレポートを提出する（用紙は授業の開始前に配布）			
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】吉岡充弘・泉剛（著）『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進 [3]』医学書院。 【参考書】栗原久（著）『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 栗原久（監修）『Stop Drug! ー薬物乱用を防止するためにー』東京法令出版。 東京福祉大学（編）『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 用量－効果相関を基に、人体と化学物質（薬物）との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加（授業態度、発言）30% 2. 課題レポート・発表30% 3. 期末試験40%			
12. 受講生への メッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください（研究室への来訪は大歓迎）。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	イントロダクション： 薬の効果発現（用量－効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体）		事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp.16-63 を読み、薬の効果発現についての概略を調べておく。注：新教科書準拠
			事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。
第2回	「抗感染症薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬）」		事前学習	pp.68-101 を読み、病原体の種類を理解する。
			事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。
第3回	「消毒薬」		事前学習	pp.306-312 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。
			事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。
第4回	「呼吸器系に作用する薬物（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬）」		事前学習	pp.240-244 を読み、喘息の原因と症状を理解する。
			事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。
第5回	「麻薬性鎮痛薬（解熱鎮痛薬、片頭痛治療薬等）」		事前学習	pp.189-194 を読み、痛みの発現機序について理解する。
			事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。
第6回	「抗ヒスタミン薬と抗炎症薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬）」		事前学習	pp.130-144 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。
			事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用を

			まとめる。
第 7 回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第 1 回～第 6 回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポート提出する。
第 8 回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物、危険ドラッグ） 【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』使用。	事前学習	【参考書】『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』pp.69-93 を調べておく。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第 9 回	「飲酒（アルコールパッチテストの実習あり）」	事前学習	【参考書】 pp.100-108 を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 1 0 回	「喫煙（ニコチン）」	事前学習	【参考書】 pp.109-114 を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 1 1 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第 1 2 回	「喫茶（カフェイン・チョコレート）」	事前学習	【参考書】 pp.115-119 を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第 1 3 回	「急性中毒に対する薬物（中毒と解毒処置）」	事前学習	教科書 pp.292-295 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置（治療薬を含む）についてまとめる。
第 1 4 回	「漢方医学の基礎知識（サプリメント）」	事前学習	教科書 pp.298-304 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第 1 5 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する（期末試験に替える）。
期末試験			